

令和元年度 宮崎県立日南高等学校 学校評価

学校経営ビジョン	次年度に創立100周年を迎える県南きっての伝統校として、目指す学校像を ○ 知徳体に渡る力を確実に習得させ、進路目標を達成させる責任を果たす学校 ○ 一人ひとりの良さを認め合い、自信と誇りを持たせる個性溢れる学校 ○ 保護者や地域の信頼に応え、学校の説明責任をしっかりと果たす開かれた学校			学校関係者評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか ・自己評価の結果は指標等を基にした妥当なものであるか ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか ※ 自己評価、学校関係者評価とも、1～4の4段階評価とする 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する
本年度の重点目標	1 学習指導の充実 (1) 授業力の向上 (2) 45分と100分授業を合わせた教育課程編成による個別指導の充実 (3) 「フェニックス」の有効な活用 ・資格取得指導の徹底 (4) 日本一の読書県を目指しての図書館活動の充実推進 2 生徒支援の充実 (1) 基本的生活習慣の確立 (2) 豊かな人間性と規範意識の醸成 (3) 部活動の充実強化 (4) 学校行事やボランティア活動等への自主的で積極的な参加 (5) 教育相談体制の充実 (6) 命を大切にす教育の充実 3 進路支援の充実 (1) 大学入学共通テストに向けた対策の研究 (2) 総合的な探究の時間の取組の研究 (3) 進路希望に応じた校内・校外ガイダンスの充実 (4) 「未来戦略課」の更なる発展と充実 (5) 「高校生学びの基礎診断」の取組の研究 4 信頼される学校作り (1) 家庭、中学校や地域との連携 (2) 広報活動の充実 (3) 地域人材や卒業生の活用 (4) 定員の確保			
重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A) 方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)	学校関係者評価
1 学習指導の充実	①総務部と連携して高校説明会やパンフレット、学校案内等を充実させる。	■パンフレットや学校案内等の情報量を増やし、広報に努める	○ 卒業生の進路や在校生の模試をデータ化し検証を行う。○ 中学校訪問を行い、中学との連携を深めることで、学校行事や日常の学校への関心や協力を呼びかけていきたい。職員による個別訪問の回数を確保したい。 ○ 他校のパンフレットを参考に中学生や、保護者に興味を持ってもらえるパンフレットを作成に努める。 ○ パンフレットについては、100周年の伝統のイメージと新たな取組みのアピールを前面に出した内容になるよう工夫した。 ○公式ホームページを一新し躍動感のある構成になるよう工夫した。	3 3.2 ・やるべきことが、たくさんある中で何を優先させ、隙間時間をいかに効率よく使えるかを意識することが必要。フェニックスナビを100%信用できるように、有効に使いこなす術をホームルームで徹底すべき。 ・学校の情報が広く伝わっていないように感じる。学校のホームページやフェイスブックには掲載されているのかもしれませんが、何人の人がホームページやフェイスブックを見ているのだろうか。 ・串間市へのアピールも積極的に行うとありますが、具体的にはどのような策を講じているのか。 ・計画的な学習の推進を強化するために宅習量調査を実施されていますが、その結果を踏まえてどのような取組をされているのか。 ・④について、「宅習量の減少が深刻化」とある。宅習の量と内容、また減少の理由を見極める必要がある。 ・宅習については、生徒各自の自覚の問題なので、本人がやる気にならなければどうにもならないのでは。 ・中学2年生向けのオープンスクールは、続けて頂きたい。
2 生徒支援の充実	①身だしなみの意識改善と、挨拶の活性化 ②HR活動、部活動、課外活動及び学校行事等への積極的参加 ③交通安全の意識啓発とマナーの向上 ④携帯電話やインターネットの正しい使い方の理解促進 ⑤規範意識と帰属意識の高揚	■全職員が校則を把握し、統一した指導を行う ■常時指導の徹底を図る ■HR活動や学校行事を工夫し、生徒が積極的に参加する意欲を高める ■部活動生の靴に光るステッカー貼付等により、無事故・無違反を目指す ■携帯電話の使用方法及び取扱に関する指導を生徒・保護者に徹底する ■時間厳守の励行に努める ■いじめ問題について全校あげて取り組む	○ 学期当初に全職員で登校指導を行ったほか、奨励部の部活動生を中心に、日常的に朝のあいさつ運動を行った。 ○ 朝の静思前に、起立し、身だしなみを整える時間を設定した。 ○ 各学期の始業日及び定期考査後に全校一斉の服装容儀指導を行うとともに、再指導を行った。 ○ 全体的に挨拶はよくできている。教師と生徒との良好な人間関係作りの一助になっている。 ○ 朝の校門指導は、挨拶だけでなく、生徒の登校状況や健康状態の把握に役立っている。 ○ 朝の挨拶運動は奨励部だけでなく、生徒会や一般の部も参加した。来年度はすべての部活動が関わるように予定を立てていきたい。 ○ 学校行事において、適宜リーダー育成を図り、生徒の主体的な取組を促した。 ○ 1年生は部活動全員参加を推奨し、各自の目標を設定し、自ら部活動に取り組む姿勢を促した。 ○ 1学期には部活動生集会和、2学期にはキャプテン会議を開催し、部活動生としての在り方や取るべき行動などを考える機会とした。 ○ 生徒会を中心に生徒会活動や学校行事、オープンスクール等では、主体的な取組が見られ、活性化している。 ○ 歓迎遠足での部活動紹介で、1年生の部加入がスムーズにいった。また退部者は例年に比べ少なく、文武両道を頑張っている生徒が多い。 ○ ボランティアに対する意識が高く、読み聞かせ・鉄肥駅清掃活動に参加する生徒も数多く、参加の態度も良かった。 ○ 保護者と協力して学校周辺での交通指導、鉄肥駅での乗車指導を行い、マナー向上を図った。 ○ 昨年度に引き続き全校生徒を対象とした交通安全教室を実施し、意識向上を図った。また、風紀交通委員会による自転車二重ロックの点検を実施した。 ○ スマホやイヤホンなどの「ながら運転」により、業務上過失致死事件も起きていることを踏まえ、被害者だけでなく加害者になり得ることを交通安全教育を徹底していく必要がある。 ○ 学校外での自転車の盗難は無く施錠率も高かったが、100%とはいかなかった。校内での施錠率を高め二重ロックの習慣化を図りたい。 ○ 携帯電話やインターネット使用上の注意、家庭内ルールの明確化、情報モラルの向上を目的とし、本校独自の「スマホ四箇条」を作成し、生徒・保護者へ入学予定者説明会、PTA総会、PTA地区懇談会等の機会を通じて周知した。 ○ 本校生徒の携帯電話・スマホの所有率は98%であった。学年が上がるに連れて所有率が高くなる反面、家庭内ルールの設定率が低いことが分かった。 ○ 携帯電話の校内持込については全国的には、普通科高校の82.5%が条件付許可としている。今後も県教委や県高P連の動向に注目していきたい。 ○ 次年度は全校生徒を対象に情報モラル教室の開催を検討中である。 ○ 通常のいじめアンケートに加えて、いじめセルフチェックを実施し、いじめ問題、善悪の判断や自分のとるべき行動等について語り、規範意識や人権意識の高揚を図った。 ○ 全職員共通理解の下、時間厳守の励行に努めた。遅刻者はほぼゼロに等しい。 ○ 朝、車で送ってもらう生徒が多く、鉄肥駅下車ルールの徹底を図っているが、ルールを守れていない生徒が若干見られる。社会のルール・マナーを理解させ、地域と共存するとはどういうことか考えさせたい。 ○ 帰属意識の醸成には、2020年(今年)の創立百周年に向けて、本校の歴史と新たな伝統をつくるために学ぶ機会と生徒自ら考えて行動し、学校作りに参画する場面を多く設定することが必要である。	4 4 3 3 4 3.6 ・携帯電話の持ち込み可否が気になる。身だしなみについては、いつも良好。ただ、挨拶は生徒からしてもらったことが無いように思う。生き生きした表情であることも地域の人は見えています。 ・朝の挨拶運動にすべての部活動が関わるのは良いことだと思う。さらにもう一歩進めて、すべての生徒が関わることはできないのか。 ・(ボランティアに対する意識向上の面だけに限らず)地域とのつながりは様々な視点から見てとても重要なことだと思う。もっと積極的に活動、そのPRをした方が良いと思う。 ・本年度の重点目標の一つに、「部活動の充実強化」とありますが、とても興味があります。具体的にはどのようなことをされているのか。 ・日南高校独自に策定されている「スマホ四箇条」のうち、「携帯電話は学校に持って行かない、行かせない。」とありますが、私は、この規定はナンセンスだと思う。もちろん、学校内での使用を認めることは出来ません。そのルールを厳格にしなければならぬと思う。しかし、いつ発生するか分からない災害や事故・事件に巻き込まれたとき等、命の危機にさらされている時の連絡手段・ツールとして、少なくとも登下校時には絶対必要なものと私は考える。 ・④について、「スマホ所有率は98%」とあり、ほぼ全生徒が保有している。また「家庭内ルールの設定率が低い」とある。家庭でのスマホ使用に学校が関与することはやはり難しいと考える。生徒には、スマホ・インターネット・SNSの使用・利用のモラルやリスクについて教育を徹底して欲しい。 ・城下町鉄肥まちづくり協議会のボランティアなどにも積極的に参加していただいており、住民からのおほめの言葉なども多く聞くようになってきている。

重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価	
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)			
3 進路支援の充実	①職業観の育成につながる取り組みの実施と地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ■南那珂地区におけるエリアネットワーク会議)や工業会との連携・情報交換を行い、生徒に還元できる企画を検討する ■地域に貢献する人材育成のため、日南市主催のメディカルサイエンスユースカレッジ・日南塾等の各種体験に積極的に参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 将来像を具体的に描くことができる取組を数多く実施する。 ○ 学年と連携して、実施企画の精選・検証を行う。 ○ 公的機関や外部業者との連携を積極的に行うことで、探究科学コース、普通科全体を含めキャリア教育の充実を図る。 ○ 学年ごとの実施が有効に機能して、3年間を見越した流れはできあがりつつある。 ○ 年度当初に全ての計画立てをするのが難しい。外部との調整が必要な点が多いため、行事との調整を細かく図りたい。 ○ 就職希望者が減少傾向にあり、今年度は就職ゼロではあったが、エリアコーディネーターや日南市役所商工マーケティング課等との連携を保ち、状況把握に努めたい。 	4	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が望む進路実現はできているのだろうか。オープンキャンパスや体験活動は、1・2年のうちから本気で動ける雰囲気をつくるべき。先生方の指導力向上は、是非是非お願いしたい。 ・「未来戦略課」の取組は生徒の将来性の幅を広げたり、とても意義のある取組だと思う。もっと活動内容等の情報発信・PRを図った方が良いと思う。 ・生徒個々に対する進路支援は良い取組だと思う。分野別教養講座については継続して実施をお願いしたい。 ・生徒一人ひとりが早い段階で自分の進路を定め、それに向けた取組ができるような支援・工夫をお願いしたい。 ・1・2年の早い時期に進路(進学・就職)についての知識や選択の可能性の幅を広げる学びをして欲しい。変化の激しい現代社会を生き抜くための人生観を外部指導も含め、取り組んで欲しい。 ・本人が何になりたいのかを早目に気づかせてあげられるよう、いろいろな外部講師の話などを聴かせてはどうか。
	②外部講師による模擬授業等の充実や進路達成のための体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■分野別教養講座を実施して、生徒の進路意識の醸成に努める ■大学・短大の出張講義の充実を図る ■オープンキャンパス・看護体験・ボランティア等の体験活動、各種大会・コンクールへの積極的な参加を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月に大学・短大・専門学校の出張講義・出前授業である分野別教養講座を実施する。 ○ 外部業者と連携した進路相談会の企画を行う。 ○ オープンキャンパス等への積極的な参加を促すため、定期的な情報提供に努める。 ○ 日南市の教育機関派遣事業のみならず、できるだけ外部との学習面での交流を図る場を設けて、生徒の学習意欲を喚起する。 ○ 「分野別教養講座」は、進路意識を高めるために非常に有効であると思われる。次年度以降も内容を精選して、数多くの学習意欲の喚起につながる場面を設定したい。 ○ 可能な限り、国公立大学との接点を増やすように努める。 ○ 体験活動等の設定においては、できるだけ生徒の現実的な進路希望に添う内容とするように、吟味していきたい。 	3		
	③学力検討会や進路検討会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■1・2年では学力検討会を2回、3年生では進路判定会を実施する。時間を十分に確保し、学力向上に向けた今後の取組を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の生徒の学力を細かく分析するとともに、今後の取組を具体的に検討する。 ○ 対外模試の結果判明直後に、学年ごとに教科分析会を実施する。 ○ 探究科学コースならではの、普通科ならではの進路が達成できるよう生徒一人一人の情報を共有する。 ○ 検討会のいずれにおいても、教科担にも出席を求めて、様々な意見を取り入れることに努めた。今後も学年と連携して、内容の充実を図りたい。 ○ 難関大を目指す生徒への指導充実を図る。学年との連携を密にして、早期の指導開始に努力したい。 ○ 対生徒指導能力の向上につながるよう、職員の指導力向上につながる研修会の実施を図る。 	3		
	④課外・土曜講座の充実と習熟度に応じた個別指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■3年生の放課後課外については、類型に合わせた編成を検討する ■各課外の編成については、学年の要望を組み入れたものとする 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3年生の放課後課外に一部、講座制を取り入れ、数・英・物・生については自由選択制講座とする。 ○ リスニング対策講座を授業内で実施して、放課後を個別指導の時間に回せるようにする。 ○ 夏休みの課外を、1・2年生は午前中のみ4時間、3年生は午後までの6時間として実施する。 ○ 水曜日の7時間目を3年生の面接・小論文対策指導にあてる形式に変更して4年目となった。また、大きな成果は残せなかったが、個々の指導を充実させるためにも、この時間の確保は継続すべきと感じる。 ○ FTの時間の活用方法を検討する。各学年、各教科と連携した取り組みを更に強化して、生徒達の幅広い進路希望に対応できるように工夫する。 	3		
4 信頼される学校作り	①家庭、中学校や地域との連携を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ■高校説明会や中学校訪問を通じて、正しく本校の現状を理解してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各中学校別のポスター・各中学校別のビデオを高校説明会前に作成し、本校に対して中学3年生が親しみやすくなるように工夫した。 ○ 「日南高校Q&A」を作成し、中学生が本校に対して持っている不安の解消や良さのアピールをする材料とした。 ○ 高校説明会では、可能な限り高1・高2生と一緒に中学校を訪問し、中学生や保護者からの質問に応じる内容を加えた。 ○ 中学校において、学校案内に書いてあることの質問を受けることもあり、繰り返し説明する機会を増やして行くことが大切である。 ○ 探究科学コースの特長・魅力作りとPRの仕方について研究する必要がある。 	3	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、宮崎日日新聞で日南高校の記事をよく目にした。エクセルシア祭や無限会でのポロシャツ姿は、とても輝いて羨ましく思える程でした。ポスターや学校案内は、どこに行けばあるのか。一般の人は、全く目にしていないのではないではないでしょうか。 ・中学校とのつながりは密にすべきと思う。今どれくらいの頻度で中学校を訪問されているのか分かりませんが、連携・情報の発信は十分図っていく必要があると思う。ひいてはそれが生徒数の増加につながるものと考えます。「待ち」の姿勢ではダメだと思う。 ・創立100周年記事年事業に関する情報発信・PRの仕方はとても大事だと思う。「知っている人だけが知っている」ではダメだと思う。 ・中学2年生向けのプレ寺子屋はとても評価が高いものだと思う。その後の発展に大きな意義のある取組だと思う。 ・地域の学校として、ボランティアや地域活動をして、またその様子を発信することで信頼を得ていくことがよいと考える。 ・市内回覧板で各家庭で高校の情報が届くようになって、リアルタイムで知ることが出来るようになったと思う。
	②広報活動を充実させ、あらゆる場面で日南高校の良さを発信する	<ul style="list-style-type: none"> ■広報媒体の製作に当たっては、目的を明確にして作成した。また、「日南高校便利エクセルショー」の内容の改善を行った 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日南高校ポスター・学校案内を年度当初の早い時期に完成させ触れる機会を増やした。 ○ 日南高校便利「エクセルショー」を年5回発行した。また、掲載記事では、行事の紹介だけでなく、推薦合格者の声や本校入学のメリット紹介の掲載などPRの充実にも努めた。さらに、学校評議委員会の助言を受けて、第2回以降は回覧板で各地区に配布した。 ○ 本校ホームページでのフェイスブックをほとんど毎日更新し、見てもらえる工夫を継続している。引き続き見てもらえる工夫を継続する必要がある。また、閲覧の広報を進める。 ○ 3学期には「日南高校ポスター」「学校案内パンフレット」についての構想をまとめ、来年度早々に作成できるように準備を進める。 ○ 日南高校便利「エクセルショー」の構成についてはさらに工夫をし、100周年のPRにも役立てたい。 ○ 串間中学校へのアピールのあり方を模索する。 	4		
	③定員の確保に向けて、魅力ある学校の特長づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ■「寺子屋にちなん」やオープンスクールの開催を通じて、本校の良さを実感してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「寺子屋にちなん」は11回のうち9回を実施した。(2回は台風/大雨のため中止)本年度は数学と英語でリトルティチャーを在校生から募り、また、英語では「基礎」「標準」の2つのコースで実施することができた。 ○ 7月開催のオープンスクールでも、生徒主体に運営がなされた。180名の参加の参加があった。 ○ 12月のプレ寺子屋は中学生59名の参加。(高校生ボランティア65名)多くはないが時期的には妥当ではないか。夏のオープンスクールにつなげたい。 	4		
	④創立百周年記念事業に向けて、同窓会との連携を進める	<ul style="list-style-type: none"> ■百周年に向けた校内組織として百周年準備委員会を発足させ、記念式典日や記念事業について検討を重ね、合わせて百周年に向けて広報に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記念事業のITC環境の整備については、今年度中に各学年5カ所と大会議室1カ所合計16カ所に電子黒板の設置を終える予定である。電子黒板の導入によって、新しい学力観に基づいた授業が展開される環境が整った。 ○ OBIによる土曜講座枠での講演では、同窓会長の河野先生に医者としての経験と勉強法について話して頂き、実施することができた。今後とも機会ある度に実施していきたい。 ○ メモリアルルームについては、設置し、展示物が少しずつ集まってきている。 ○ 広報について 百周年の周知のために、2枚目の横断幕を製作し飴肥城下祭りで披露した。顔出しパネルは本校の学校紹介パンフレットおよびポスターに使用し活用している。ロゴとスローガン入りの記念ポロシャツを製作し、同窓会からの寄贈により生徒全員に配布し、エクセルシア祭や無限会で着用し生徒の百周年記念の意識向上と地域への周知に活用した。■百周年記念ポスターの製作を検討している。 	3		